



# 猫新聞

郵便振込口座  
00830-2-204941 Go!Cats  
ホームページ：  
<http://go-cats.main.jp/index.html>

ゴーキャッツは浜松市を中心に、飼い猫・野良猫の不妊手術推進、猫の譲渡会開催などの活動をしています



くれぐれも**ご用心!** ねがいます

## リボンやヒモにご用心! 猫が食べて

しまつて困るものはたくさんありますが、中でもリボン、毛糸玉、ミシン糸、輪ゴムなど「ひも」状の物は非常に危険です。が、当の猫はこの危険な物が大好きで、遊んでいるうちに飲み込んでしまうことが良くあります。知人の猫も床に落ちていたひもを飲み込んでしまい腸閉そくを起こして生死の境をさ迷いました。幸い、手術で一命を取り留めましたが、取り出したひもは60cmもあったそうで、心底ゾツとしたと話していました。それ以来、知人は神経質すぎるくらい「ひも隠し」に励んでいます。ひもで遊んだり、くわえたりする癖がある猫を飼っている方は「ひも隠し」を徹底するしかありませんね。猫の生活スペースを日々入念にチェックしてください。もし、長いまま食べてしまつて、そのひもがお尻から出ていたりしたら、無理に引っ張りださずすぐ動物病院へ（ひもが胃や腸に絡まっていたら大変危険です）。

## レジ袋にご用心! 猫って、箱やレジ袋を見かけるととりあえず入りたくなるようです。特にレジ袋はカサカサと音がするのでみんな大好きですが、袋の持ち手部分に頭をつっこんで抜けなくなると大変です。大パニックでいろんなものをなぎ倒しながら、時にはオシッコをまきちらしながら家中を狂ったように走り回ります。逃げても逃げてもパラシュートのようにふくらんだ袋がガサガサ大きな音を立てて追いかけてくるのですからそりゃあ怖いでしょう。何かにぶつかつてケガをすることもありますから危険です。紙袋やレジ袋の持ち手は切っておきましょう。それより出しっぱなしにしないことです。

## きれいな花にもご用心! テッポウユリ、オニユリなどユリ科の植物は、花も葉も茎も猫にとってはきわめて猛毒で、葉っぱを一口かじっただけでも、また花に触つた毛を舐めただけでも中毒を起こすことがあります。残念ながら特効薬的な解毒剤もなく、腎不全に陥つて亡くなつてしまう事も少なくありません。ネコのいるお宅は「ユリの持ち込み厳禁!」と心得て下さい。

## 脱走にご用心! 室内飼いを楽にするコツは「とにかく一歩も外に出さないこと」。

脱走を繰り返し、外の楽しさを知つてしまうと夜中でも出たがつて大声で鳴くようになり大変です。脱走で一番多いのは玄関など出入り口からの飛び出しですから要注意。猫は動きが俊敏ですから、「出る気満々」の猫は10cm開いたらその瞬間に足をすり抜けて一気に飛び出てしまいます。フェンスや段ボール箱などを置いてガードしましょう。猫がいる部屋のドアを閉めてから玄関を開けるようにすると安心です。配達の人などが外から開けてしまうこともありますから鍵は常にかけておいた方が良いでしょう。御家族が外から入る時も入口を先ず少しだけ開け猫がいないことを確かめてください。大人の猫は自分で網戸や窓を開けたりもしますから、こちらでも対策が必要。手っとり早いのは100円ショップで突っ張り棒を何本か購入して網戸を固定すること。また、網戸の枠に両面テープで貼り付ける網戸ロックは人間が出入りする時簡単にロックを解除できるので便利です。

## 仔猫の首輪にご用心! 春から秋にかけて仔猫を飼い始めた方も多いことと思います。仔猫や成長期の猫に首輪をつけるときは、ゴムなど伸縮性のある材質のもの、一部がゴムになっているもの、どこかに引っかかつたら外れるタイプのものなどを選びましょう。万一飛び出してしまつて戻れなくなり、外で暮らすようになってしまつたら、成長の段階で革製や布製の硬い首輪は首を締め付け、肉に食い込んで命をも奪いかねない「凶器」となります。くれぐれもご注意ください。首輪には名札を付けたり、連絡先を書き込んでおきましょう。付け方が緩いと口に引っ掛かつてしまいますので、これもご用心。

## 冬はやけどにご用心! 寒がりの猫たちがストーブの前やこたつの真ん中を陣取り、大の字になって眠りこける季節になってきました。その姿もまた可愛いものですが、ちょっとご用心! ストーブやファンヒーターなどに張り付いて寝ていると毛が焦げてしまうことがあります。また、ホットカーペットや電気あんか、電気毛布などに長時間触れていると低温火傷を起こす危険があります。皮膚の深いところまでダメージを受ける低温火傷は治りにくいので、仔猫や高齢の猫などは特に気を付けてあげてください。温度や使用時間の設定で調節したり、直接肌に触れないようタオルや毛布を敷くなどすると良いでしょう。

# トンとテンのこと



6月のある日。保護して1週間目の兄弟仔猫の1匹に突然異変が起きました。ケージの中であちこちに体をぶつけ、水やフード入れをひっくり返しながら狂ったような激しさで暴れまわります。初めて見る光景にただビックリしているうちにそれは治まりました。

ただの「大暴れ」なのか、そうでない何かなのか…、判断もつかずにいたところ数日後にまた同様のことがありました。この小さな体の中で何かが起きている事は確実です。翌日病院に連れて行ったところ、「てんかんの発作でしょう」という診断。生後1ヶ月足らず、たった380gの仔猫が背負わなくてはならない重い現実には暗澹とした気持ちになってしまいました。

でも、その時は知識がないことでした。さらに悲観的になっていたようです。いろいろ調べてみたら、薬が合いさえすれば発作もなく元気に過ごせるということです。現にトンもすこぶる元気に育っています。それでもこの先何が起こるか分かりません。里親さんを探すのは諦めるしかないという覚悟を決めていました。

ところが、です。8月の譲渡会に寄付の缶詰を届けてくださったEさんに猫談義の中でトンの発作のことや薬のことなどをお話したら、翌日ご主人が「うちのみんなと仲良くできるようならトン君を我が家に迎えましょう」と申し出てくださったのです。心臓が止まるくらいのビックリでした。

ステイ初日、トンは先輩の猫さんやワンちゃんたち

と、今までずっとそうしてきたかのようにごく自然に鼻を合わせて挨拶をしました。

トンには「あの家とこの家」「犬と猫」といったちっぽけな区別は存在しないようです。病気と引き換えにこのおらかな性格を神様からいただいたのなら、それはそれでありがたいことだと思えました。

正式に迎えていただいたトンは、みんなに囲まれて楽しく幸せに暮らしています。発作も起きていないそうで、Eさんご夫妻も、トンも、トンを保護した方も、私たちもみんながハッピーでした。

が、何とすることでしょう。トンが幸せを掴むのを待っていたかのように、今度は兄弟のテンに発作が起きるようになったのです。それはトンよりもずっと激しいもので、ある瞬間突然ものすごいスピードで走りだし、壁にぶつかり



柱にぶつかりしながら、前が塞がっていてもひたすら突き進もうともがきます。ぶつけた鼻や爪から血が滲みます。何十秒かのけいれんが続いた後ぐったりと放心状態のてんを抱きながら、かわいそうと一緒に泣きたくなくなってしまいます。でも、そのあとのテンのあつけらかんとした明るさにいつも救われてきました。

トンもそうでしたが、テンも天真爛漫な本当に良い子です。トンが幸せになったのですから、テンにも幸せを探してやりたいと思っています。

今発作は起きていませんが、病気のことを理解して下さる方、同じ病気の猫と暮らした経験をお持ちの方にお話ししたいと思えます。テンを迎えてやろうと思っただ下さる方はどうぞお声をかけて下さい。

## 動物愛護管理法

第六章罰則 第四十四条3項

愛護動物を遺棄した者は **50万円以下**の罰金に処する。

【第4項 愛護動物とは

1. 牛、馬、豚、やぎ、犬、猫、家うさぎ、鶏、家鳩など
2. 人が占有している動物で哺乳類、鳥類又は爬虫類】

捨てた人(違法行為)を目撃した方は  
**最寄の警察署、交番に通報してください。**

## Go! Catsの

### 「仔猫・若猫譲る会」

第1日曜日：ペット愛ランド早出町店 (11:00~15:00)

第2土曜日：熊平動物病院 (半田山 12:30~15:30)

第3日曜日：ペット愛ランド志都呂店 (11:00~15:00)

第4日曜日：西山会館 (西山町 13:00~16:00)

どうぞおでかけください

毎月第4土曜日には、遠鉄百貨店正面玄関前にて「小さな命について考えるパネル展」を行っています。

※譲る会もパネル展も、場所や日時を変更することがあります。